

# キャリアオーナーシップ

## 概念整理 vol.1

作成：キャリアオーナーシップリビングラボ運営チーム

総合人材サービス、パーソルグループのパーソルキャリア株式会社は、特定非営利活動法人ミラックと共に、キャリアオーナーシップを探索する共同研究を行った。

最初の取り組みとして、「キャリアオーナーシップ」と呼ばれる概念を明らかにするために、関連概念である「働き方」や「主体性」を基にした文献24冊から情報を取得し、GTA (Grounded Theory Approach) を用いて情報の整理・構造化を実施した。最終的には「キャリアオーナーシップ 5つの中心概念」としてまとめた。

## 目次

P3	調査プロジェクト全体像
P4	STEP1. 24冊の文献から要素を抽出
P5	文献選定のために基準とした概念領域
P6	STEP2. 要素の整理とデータベース化
P7	STEP3. GTAを用いた情報の整理・構造化
P8	「キャリアオーナーシップ」5つの中心概念

# 調査プロジェクト全体像

今回の調査プロジェクトでは、「キャリアオーナーシップ」と呼ばれる新規概念を整理するために、2020年2月から4月までの約3か月間で下記のStep1～3の取り組みの取り組みを実施した。

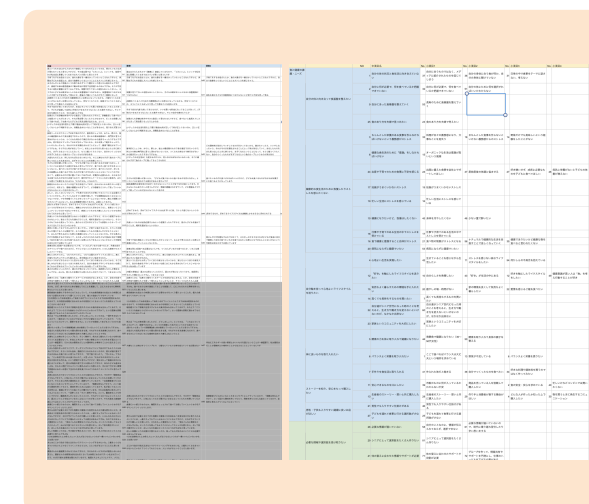
## STEP1. 24冊の文献から要素を抽出

本調査のテーマである「キャリアオーナーシップ」に文献選定のために基準とした概念領域整理し、幅広い要素を得られるように24冊の文献を選書。各書籍から「キャリアオーナーシップ」に関連する重要な視点や考え方を文章として抽出をし、spreadsheet上に整理をした。



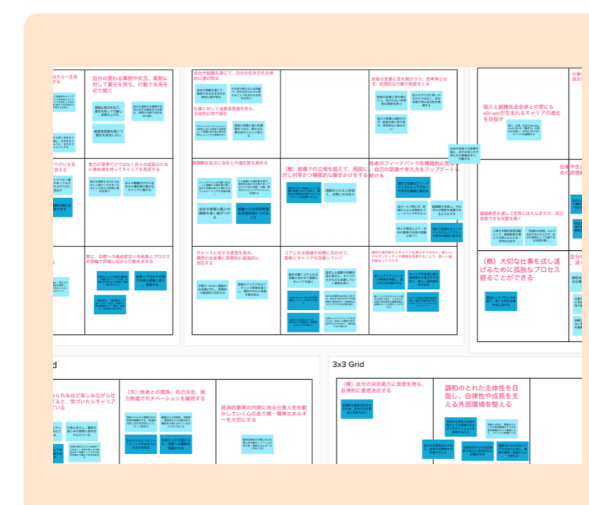
## STEP2. 要素の整理とデータベース化

文献調査で得られた文字情報を、文節ごとに区切り、不要な文章を削除し、各書籍から得られた要素を整理した。通常1文献からは約30-60要素を抽出することができ、今回は24冊の文献から合計574の要素が抽出された。



## STEP3. GTAを用いた情報の整理・構造化

得られた574の要素をGTAと呼ばれる技法を用いて整理・構造化を実施。それぞれの要素が持つ情報を統合する形で、3~4層程度の構造へと集約。整理・構造化により「キャリアオーナーシップ 5つの基本概念」に集約された。



# STEP 1. 24冊の文献から要素を抽出

P5の「文献選定のために基準とした概念領域」と照らし合わせる形で、書籍を選定した。古典・名著と呼ばれる専門的な文献だけではなく、実践論や方法論に関連する書籍を選定し、幅広い視点や考えを情報として取得した。

1. 主体的に動く (2009, ロジャー・コナーズ, トム・スミス, クレイグ・ヒックマン)
2. 主体性は教えられるか (2012, 岩田健太郎)
3. 働き方の哲学 360度の視点で仕事を考える (2018, 村山昇)
4. 働くことの哲学 (2016, ラース・スヴェンセン)
5. だれのための仕事 (2011, 鷲田清一)
6. 新・動機づけ研究の最前線 (2019, 上淵寿, 大芦治)
7. モティベーションをまなぶ12の理論 (2012, 鹿毛雅治)
8. フロー体験とグッドビジネス (2008, M. チクセントミハイ)
9. よくわかる組織論 (2010, 田尾雅夫)
10. 人を伸ばすカー内発と自律のすすめ (1999, エドワード・L. デシ, リチャード フラスト)
11. 比べてわかる! フロイトとアドラーの心理学 (2014, 和田秀樹)
12. パーソナリティ心理学 (2009, 榎本博明, 堀毛一也, 安藤寿康)
13. トランジション (2014, ウィリアム・ブリッジズ)
14. 改訂版 ワークライフバランス -考え方と導入法 (2010, 小室淑恵)
15. キャリアデザインの教科書 (2019, 大山雅嗣, 斎藤幸江, 田所薫, 西本万映子)
16. キャリア・デザイン・ガイド (2003, 金井寿宏)
17. キャリア・アンカー (2003, エドガー・H. シャイン)
18. 自己の基礎理論—実証的心理学のパラダイム (1999, 溝上慎一)
19. 激動社会の中の自己効力 (1997, アルバート バンデューラ)
20. ワーク・エンゲイジメント -基本理論と研究のためのハンドブック- (2014, アーノルド・B・バッカー, マイケル・P・ライター)
21. ワーク・エンゲイジメント ポジティブメンタルヘルスで活力ある毎日を (2014, 島津明人)
22. プロフェッショナルの条件 (2000, P・F. ドラッカー)
23. ドラッカー・スクールのセルフマネジメント教室 (2020, ジェレミー・ハンター, 稲垣 聡一郎)
24. キャリアコンストラクションワークブック (2013, 安達智子, 下村英雄)



# 文献選定のために基準とした概念領域

「キャリアオーナーシップ」と呼ばれる新規概念を整理するために、1から4までの近接する4つ概念領域を整理し、領域に照らし合わせる形でキーワードや考え方を精査し、文献選定のための基盤とした。

## 1. 主体性

主体性に関する概念は、キャリアオーナーシップにおいて中心概念となる概念であり、個人が自分のありたい姿や目標・目的に向かって自ら意思決定をすることである。そのためには自己効力感や責任感を持ち、自己調整・自律できることが望まれる。また、主体性を涵養するためには本人が選択できる自由度を持たせることが重要である。

領域：目標・目的意識、自己効力感、責任感、自己調整・自律、自由度

## 2. 自己認識

自己認識に関する概念は、キャリアオーナーシップの向上と深い自己理解につながり、自己の意思決定の要となる。自らが持つ信念や価値観を俯瞰して捉え、モチベーションを保つことができることが望ましい。そのためにフロー体験やレジリエンスの感覚を理解し、直面した問題や課題をどのように解決していくことができるか、自己の認識を深めていくことが大切である。

領域：信念・価値観、自己理解・メタ認知、自己認識、モチベーション、レジリエンス、フロー体験、発達課題

## 3. 職業観

職業観に関する概念は、キャリアオーナーシップにおける仕事の位置づけに重要な概念である。人間関係や労働環境、ワーカホリズムなどの課題がある中で、ワークエンゲイジメントや職務効力感をどのように持っているのか、どのように高めることができるのか理解し、パラレルキャリアやトランジションも含めた多様な仕事・キャリアの在り方を考える上で重要な領域である。

領域：人間関係、労働環境、ワーカホリズム、ワークエンゲイジメント、職務効力感、パラレルキャリア、トランジション

## 4. 人生観

人生観に関する概念は、キャリアオーナーシップにおける仕事の外側も含めた自己の生き方を捉えた上で、個人の持つキャリアオーナーシップの位置づけを考えていくために重要である。自分にとっての生きがいを持ち、ライフイベントや社会的マイノリティのように阻害要因に直面しても仕事としてのキャリアと仕事外のライフイベントのバランスを自分なりに選択していくことがキャリアオーナーシップを高めていくことにも繋がる。

領域：いきがい、キャリアデザイン・ライフプランニング、ライフイベント、ライフサイクル、キャリアアンカー、社会的マイノリティ



# STEP 2. 要素の整理とデータベース化

選定された24冊の文献から要素と呼ばれる大切にすべき視点や価値観が、最終的に計574集約された。文献から抽出した本文、本文を整理した要素、また要素の出典文献などをspreadsheet上に整理をしデータベースを作成した。データベース上で全ての情報を管理・蓄積し、出典情報などの必要な情報へと簡単にアクセスすることができる状態を構築した。

NO	小項目	No.	要素	No.	要素	No.	要素	No.	要素	No.	要
1	貢献に焦点を当て、責任を持って行動し、成果を上げる	bb4 2	自らを成果をあげる存在にできるのは、自らだけ	bb1 9	貢献に焦点を合わせるということは、責任をもって成果をあげるということ	a2 1	行動に移すとは、途中経過を含む、結果に対する全責任を引き受けること	f5	現在では、会社での労働よりも無償のボランティアの方が、かつての仕事、他者の為に動かすという「働く」イメージに近い		
2	能力を習得するだけでなく、人間としての成長に責任を持つ	bb4 4	成功の鍵は、自らに責任をもたせること	bb4 0	自らの成長に責任をもつ者は、上司ではなく、その人自身	bb 47	成長するということは、能力を習得するだけでなく、人間として大きくなること				
3	自らの総力を発揮すると決心し、最高の成果を引き出す	bb4 3	まず果たすべき責任は、自らの最高のものを引き出すこと	bb4 6	責任ある存在になるということは、自らの総力を発揮する決心をすること						
4	被害者意識を感じて責任を拒否しない	a18	被害者意識を感じて責任を拒否するようなことをすれば、自分が満足できるほどの成功や達成感決して得られない	a3	結果に対する責任を回避しようとするれば、被害者意識の悪循環に陥り、責任の押しつけ合いが始まり、気力も意志も失われる						
5	自分一人で閉じず、周囲の人から定期的にフィードバックをもらう	d2	人間の仕事を もっと詳しくながめてみるに、私たちの仕事は自分一人で閉じてできるものではない	a16	周囲の人から定期的に継続してフィードバックをもらうと、洞察力が養われ、現実を正しくとらえられるようになる						
6	自分に起因する事柄や状況に対する責任を引き受け、自分の行動で未来を切り開く	a6	当事者意識を持つは、自分自身だけでなく周囲に影響が及ぶものを含む、自分に起因する事柄や状況に対する責任を引き受けることであ	a19	当事者意識とは、現状と自分の行いとの関係性を見いだす力であり、自分の行動で自分の未来を切り開く力						
7	個人の目標と課題をつなげ、関わる仕事を自分ごととして捉える	d78	関わる仕事を「自分ごと」としてとらえられるかどうかで、「他人ごと」になっている仕事のもとでは、たぶん目的はそこにはなく、目標に動かされている状態になっている	q17	「人がその人らしいやり方で実現しようとしている一連の固有の目標」を「個人的課題」と名づけ、より広範な欲求や動機、あるいは特殊な課題目標よりも、両者をつなぐミドル・レベルに位置づけられるような目標の検討が重要						
8	訓練で容易に変えられない気質・個性・傾向を明確に理解する	bb5 2	気質や個性は、訓練によって容易に変えられるものではないだけに、重視し、明確に理解することが必要	q14	ビッグ・ファイブとは「神経症傾向」、「外向性」、「開放性」、「調和性」、「誠実性」の5つのパーソナリティ特性						
9	成功も失敗も成果の一つととらえ、一旦挑戦し、仕事への主体性を高める	d63	成功するにせよ、失敗するにせよ、いったん挑戦すればそこには次の挑戦と成功の「種」が宿される	z6	ワーク・エンゲイジメントは挑戦的なもので高めることができる	d6 1	成功も失敗も、挑戦したことに対する結果減少の一つ	a10	アカウントビリティとは、業績が下がったり問題が発生したり、思うような成果があらなかったときなど、失敗して初めて問われるものではない		
10	行為に没入し、最高の楽しみの感覚に身を任せる	h22	フローとは、私たちが全人的にある行為に没入している時に経験する、包括的で流れるような意識の状態	j1	どのような場面だろうと、人々が深い楽しみの感覚を感じる時、最高の楽しみの瞬間を、外部の力で運ばれていったり、エネルギーの流れで努力せずに流されていくというような類似の表現で述べる						
11	時間がさっと飛んでいくように感じられる没入体験を大切に	j12	フロー体験中は、時間がさっと飛んでいくように感じられる								
12	個性を生かした得意な仕事の仕方を理解する	bb2 8	自らがいかなる仕事の仕方を得意とするかは、強みと同じように重要	bb2 6	誰もが、自らの強みや弱みについて、よくわかっていない	t10	自分の好きなことや得意なことを理解し、その延長線上にある自分に見合った職業を選択することが大事	bb38	今日、一人ひとりの人間にとって、自らの強みを生かす場をもてるようにすることに重要な意味がある		
13	仕事に就くはるかまえに形成された自らの特性や能力について正確に知る	g27	自己知識とは、自分の特性や能力について、正確で確かな証拠、特に自己評価を確認するような証拠を求める願望	bb2 9	仕事の仕方は人それぞれであり、仕事につくはるか前に形成された個性						
14	社会や他者との差異を基に、自分の感じ方や考え方の基軸を作り、行動する	q5	概念的自己は、自分自身についての信念や仮説が体系化されたものとしての自己で、自分の社会的役割や他者との差異の次元によって構成される自分についての理論	u3	アンカーはアイデンティティの概念と似ており、自分らしさの基軸がわかっているから、変化の節目もくぐれる	t1	キャリアとは個人が自分を取り巻く環境の中で、自分自身に対する感じ方や考え方を明確にし、その進むべき方向と行動を決定していく過程	h14	自己決定理論では、学ぶこと、働くこと等多くの活動において自己決定することが高いパフォーマンスや精神的な健康をもたらす	z22	ワ 関 を
15	人間の本質的表現活動として、価値創造を通じて世界にはたらき・作用を及ぼす	d5	それらはみな、働く人の創造的行為・創造物で、広い意味での表現	d1	仕事とは、「それをやる前に比べ、なんらかの価値を創造した行為」	d8	「長い時間×忍耐×創造性」によってのみ成しえる建設的な仕事がある	d3	それほど表現することは人間の本質的活動であり、実際、私たちはみな、何かしら表現を売って生きている		
16	予想のつかない偶発の出来事に対し、即興的に創造的に対応する	d39	キャリア形成には、ラグビーやジャズのプレー要素があり、予測のつかない楕円球の転がりはどう対応するか、即興という創造的逸脱をどう仕掛けるか	d35	キャリアは100%自分の意のままにコントロールできるようなものではなく、大部分、偶発の出来事によって方向づけられている						

# STEP3. GTAを用いた情報の整理・構造化

選定された24冊の文献について、GTA (Grounded Theory Approach) を用いて得られた情報の整理・構造化を行なった。24冊の文献から文章を抽出された要素と呼ばれる大切にすべき視点や価値観が、最終的に計574集約された。これら574要素を集約をしていくことで、上位概念として小項目140、中項目39、大項目11を段階的に作成し、最終的に5領域にまとめ、この5領域を「キャリアオーナーシップ」の5つの中心概念とした。

<p><b>仕事内外のキャリアを調和させ、相乗効果による好循環を生み出す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事以外の生活を大切に。仕事も無理なく成果を上げる</li> <li>仕事と生活の両方のキャリアを上手に調整し、相乗効果を生み出す</li> </ul>	<p>生き方や働く意味という観点から生涯の長期的なキャリアを形成する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先方、働く意味という観点から自分のキャリアを考える</li> <li>一生を通じて行う仕事の準備、進め、直し、適切なする</li> <li>人生設計における段階的アプローチで仕事を考える</li> </ul>	<p>自分の関わる事柄や状況、貢献に対して責任を持ち、行動で未来を切り開く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貢献に責任を持ち、責任を持って行動し、成果を上げる</li> <li>自分に期待する事柄や状況に対する責任を引き受け、実践的な行動を始める</li> <li>責任者意識を感じて責任を担わない</li> </ul>	<p>会社や組織を通じて、自分の生き方を主体的に選び取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会社や組織を通じて、納得できる生き方を主体的に選ぶ</li> <li>やる気や熱心さは活動で、自分の成長のために活かすことで主体的な生き方を持つ</li> </ul> <p>仕事に対して当事者意識を持ち、主体的に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロフェッショナルとして主体的に責任を持って行動し、周囲の期待に応える</li> <li>組織の目標と個人の目標を結びつけ、責任を自分ごととして捉える</li> </ul>	<p>他者の言葉に耳を傾けつつ、思考停止せず、自律的な行動や態度をとる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者の言葉に耳を傾けつつ、思考停止せず、自律的な行動や態度をとる</li> <li>他者の言葉に耳を傾けつつ、思考停止せず、自律的な行動や態度をとる</li> </ul>	<p>個人と組織社会全体との間にもwin-winが生まれるキャリアの進化を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人、企業、社会のwin-winを実現するために、自分自身のキャリアを進化させる</li> <li>個人と組織社会全体との間にもwin-winが生まれるキャリアの進化を目指す</li> </ul>	<p>仕事やキャリアについて意思を持って目標を設定し、有能性の向上や自己実現を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事やキャリアについて意思を持って目標を設定し、有能性の向上や自己実現を図る</li> <li>仕事やキャリアについて意思を持って目標を設定し、有能性の向上や自己実現を図る</li> </ul>	<p>大切な仕事を成し遂げるためには、リスクに直面しても、軸をぶらさず行動する勇気を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大切な仕事を成し遂げるためには、リスクに直面しても、軸をぶらさず行動する勇気を持つ</li> <li>大切な仕事を成し遂げるためには、リスクに直面しても、軸をぶらさず行動する勇気を持つ</li> </ul>
<p><b>仕事と休暇を明確に区切り、どちらもバランスよく保つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事と休暇の両方を大切に保つ</li> <li>仕事と休暇の両方を大切に保つ</li> </ul>	<p>仕事の中に意味や価値、やりがいを見出し、自己実現の場として捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事の中に意味や価値、やりがいを見出し、自己実現の場として捉える</li> <li>仕事の中に意味や価値、やりがいを見出し、自己実現の場として捉える</li> </ul>	<p>能力の習得だけでなく自らの成長のために責任感を持ってキャリアを形成する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>能力の習得だけでなく自らの成長のために責任感を持ってキャリアを形成する</li> <li>能力の習得だけでなく自らの成長のために責任感を持ってキャリアを形成する</li> </ul>	<p>価値観を起点に会社との適応度を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>価値観を起点に会社との適応度を高める</li> <li>価値観を起点に会社との適応度を高める</li> </ul>	<p>(概) 組織での立場を超えて、周囲に、自己の認識や考え方をアップデートし、対等かつ積極的な働きかけをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(概) 組織での立場を超えて、周囲に、自己の認識や考え方をアップデートし、対等かつ積極的な働きかけをする</li> <li>(概) 組織での立場を超えて、周囲に、自己の認識や考え方をアップデートし、対等かつ積極的な働きかけをする</li> </ul>	<p>他者のフィードバックを積極的に受け取り、自己の認識や考え方をアップデートし、対等かつ積極的な働きかけをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者のフィードバックを積極的に受け取り、自己の認識や考え方をアップデートし、対等かつ積極的な働きかけをする</li> <li>他者のフィードバックを積極的に受け取り、自己の認識や考え方をアップデートし、対等かつ積極的な働きかけをする</li> </ul>	<p>仕事や生活に対して、自分らしく生きるための評価軸を持ち、最適な行動を選択する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事や生活に対して、自分らしく生きるための評価軸を持ち、最適な行動を選択する</li> <li>仕事や生活に対して、自分らしく生きるための評価軸を持ち、最適な行動を選択する</li> </ul>	<p>主観的な価値や信念を大切にしながら、自らの能力を引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主観的な価値や信念を大切にしながら、自らの能力を引き出す</li> <li>主観的な価値や信念を大切にしながら、自らの能力を引き出す</li> </ul>
<p>自ら望む未来から逆算して今の現状の仕事を通じて、の在り方や価値を生み出している知識や技能、経験を積み重ねる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら望む未来から逆算して今の現状の仕事を通じて、の在り方や価値を生み出している知識や技能、経験を積み重ねる</li> <li>自ら望む未来から逆算して今の現状の仕事を通じて、の在り方や価値を生み出している知識や技能、経験を積み重ねる</li> </ul>	<p>常に、目標への達成度合いを結果とプロセスの両軸で評価しながら行動を定める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>常に、目標への達成度合いを結果とプロセスの両軸で評価しながら行動を定める</li> <li>常に、目標への達成度合いを結果とプロセスの両軸で評価しながら行動を定める</li> </ul>	<p>コアになる価値や目標に合わせて、柔軟にキャリアを調整していく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コアになる価値や目標に合わせて、柔軟にキャリアを調整していく</li> <li>コアになる価値や目標に合わせて、柔軟にキャリアを調整していく</li> </ul>	<p>チャンスの到来時に即断的に創造的に対応する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チャンスの到来時に即断的に創造的に対応する</li> <li>チャンスの到来時に即断的に創造的に対応する</li> </ul>	<p>既存の選択からキャリアを脱却しては、新しいアイデンティティや価値観を築くことで、新しい選択を創り出す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の選択からキャリアを脱却しては、新しいアイデンティティや価値観を築くことで、新しい選択を創り出す</li> <li>既存の選択からキャリアを脱却しては、新しいアイデンティティや価値観を築くことで、新しい選択を創り出す</li> </ul>	<p>(概) 大切な仕事を成し遂げるために孤独なプロセスを経ることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(概) 大切な仕事を成し遂げるために孤独なプロセスを経ることができる</li> <li>(概) 大切な仕事を成し遂げるために孤独なプロセスを経ることができる</li> </ul>	<p>自分の持つ個性や能力、価値観について、深く理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の持つ個性や能力、価値観について、深く理解する</li> <li>自分の持つ個性や能力、価値観について、深く理解する</li> </ul>	<p>自分の個性や能力を活かすことができる仕事や環境を選択し、適応する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の個性や能力を活かすことができる仕事や環境を選択し、適応する</li> <li>自分の個性や能力を活かすことができる仕事や環境を選択し、適応する</li> </ul>

### 3x3 Grid

<p>時間を忘れられるほど楽しみながら仕事に没入すると、気づいたらキャリアが成長している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時間が忘れられるほど楽しみながら仕事に没入すると、気づいたらキャリアが成長している</li> <li>時間が忘れられるほど楽しみながら仕事に没入すると、気づいたらキャリアが成長している</li> </ul>	<p>(方) 他者との関係、自己決定、能力熟達でモチベーションを維持する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者との関係、自己決定、能力熟達でモチベーションを維持する</li> <li>他者との関係、自己決定、能力熟達でモチベーションを維持する</li> </ul>	<p>経済的事実の内側にある仕事人生を動かしていく心のあり様・精神エネルギーを大切に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経済的事実の内側にある仕事人生を動かしていく心のあり様・精神エネルギーを大切に</li> <li>経済的事実の内側にある仕事人生を動かしていく心のあり様・精神エネルギーを大切に</li> </ul>
<p>自己の能力発揮と一つ上の挑戦ができる環境を整えることで仕事に没入できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の能力発揮と一つ上の挑戦ができる環境を整えることで仕事に没入できる</li> <li>自己の能力発揮と一つ上の挑戦ができる環境を整えることで仕事に没入できる</li> </ul>	<p>(概) 自分の状況に合わせて自分の役割を発揮しながら柔軟に対応する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の状況に合わせて自分の役割を発揮しながら柔軟に対応する</li> <li>自分の状況に合わせて自分の役割を発揮しながら柔軟に対応する</li> </ul>	<p>(方) 自分の行動や選択を好意的に捉え、自身でモチベーションを維持できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の行動や選択を好意的に捉え、自身でモチベーションを維持できる</li> <li>自分の行動や選択を好意的に捉え、自身でモチベーションを維持できる</li> </ul>

### 3x3 Grid

<p>(概) 自分の決定能力に自信を持ち、自律的に意思決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の決定能力に自信を持ち、自律的に意思決定する</li> <li>自分の決定能力に自信を持ち、自律的に意思決定する</li> </ul>	<p>調和のとれた主体性を目指し、自律性や成長を支える外部環境を整える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調和のとれた主体性を目指し、自律性や成長を支える外部環境を整える</li> <li>調和のとれた主体性を目指し、自律性や成長を支える外部環境を整える</li> </ul>	<p>これまでの成功経験から、自分の可能性を認知する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの成功経験から、自分の可能性を認知する</li> <li>これまでの成功経験から、自分の可能性を認知する</li> </ul>
<p>成功も失敗も成長として捉え、意味のある選択を積み重ね、挑戦する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成功も失敗も成長として捉え、意味のある選択を積み重ね、挑戦する</li> <li>成功も失敗も成長として捉え、意味のある選択を積み重ね、挑戦する</li> </ul>	<p>これからのキャリア選択・進路に悩む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これからのキャリア選択・進路に悩む</li> <li>これからのキャリア選択・進路に悩む</li> </ul>	<p>自己能力やキャリア選択・進路に悩む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己能力やキャリア選択・進路に悩む</li> <li>自己能力やキャリア選択・進路に悩む</li> </ul>

MURALを用いた情報整理



# 「キャリアオーナーシップ」5つの中心概念 **OUTCOME**

24冊の文献から得られた574の要素を集約し、最終的には「キャリアオーナーシップ」がA,B,C,D,Eの5つの領域に集約された。AからEのそれぞれの領域には、a1やc2などの下位領域がより具体的な情報として整理がされている。

## A. 軸を起点にありたい自分の生き方を構想する

### a1：自分らしく生きるための軸を持つ

1. 大切な仕事を成し遂げるために、リスクに直面しても、軸をぶらさず行動する勇気を持つ
2. 内発的な人生目標を設定して仕事をする
3. 自分の決定能力に自信を持ち、自律的に意思決定する
4. 意思を持って目標を設定し、有能性の向上や自己実現を図る
5. コアになる価値や目標に合わせて、柔軟にキャリアを改善していく
6. 自分らしく生きるための評価軸を持ち、最適な行動を選択する
7. 大切な仕事を成し遂げるために孤独なプロセスを経る

### a2：未来起点でキャリアを設計する

8. 生き方や働く意味という観点から一生涯の長期的なキャリアを形成する
9. 自ら望む未来から逆算して今の自分の在り方や価値を生み出していく
10. 既存の選択肢からキャリアを選ぶのではなく、新しいアイデンティティや環境を用意することで、新しい選択肢をつくりだす

## B. 自己を理解し、仕事を通して自己実現・表現する

### b1：仕事を通して自己実現する

11. 時間を忘れられるほど楽しみながら仕事に没入し、気づいたらキャリアが成長している
12. 仕事の中に意味や価値、やりがいを見出し、自己実現の場として捉える
13. 会社や組織を通じて、自分の生き方を主体的に選び取る
14. チャンスに対する感度を高め、偶然の出来事に即興的に創造的に対応する
15. 仕事に対して当事者意識を持ち、主体的に取り組む

### b2：個性を理解し自己を表現する

16. 自分の持つ個性や能力、価値観について、深く理解する
17. 主観的な価値や信念を大切にしながら、自らの能力を引き出す
18. 自分の個性や能力を活かすことができる仕事や環境を選択し、適応する
19. これまでの成功経験から、自分の可能性を認知する
20. 価値創造を通して世界にはたらきかけ、自己表現する

### b3：挑戦することで未来を切り開く

21. 成功も失敗も成果として捉え、意味のある選択肢を積み重ね、挑戦する
22. 自己の能力発揮と一つ上の挑戦ができる環境を整え、仕事に没入する
23. 自分の関わる事柄や状況、貢献に対して責任を持ち、行動で未来を切り開く

## C. 心の内側にある好奇心やモチベーションを起点に行動する

### c1：モチベーションを維持する

24. 他者との関係、自己決定、能力熟達でモチベーションを維持する
25. 自分の行動や選択を好意的に捉え、自身でモチベーションを維持する

### c2：精神エネルギーや好奇心を大切にす

26. 経済的事実の内側にある仕事人生を動かしていく心のあり様・精神エネルギーを大切にす
27. 仕事に対する興味や好奇心を大切にす、自律的に取り組む

## D. 新しいものを受容し、自己変容を積み重ねる

### d1：学びを積み重ねる

28. 他者の言葉に耳を傾けつつ、思考停止せず、自律的な行動や態度をとる
29. 他者のフィードバックを積極的に受容し、自己の認識や考え方をアップデートし続ける

### d2：新しいものを受け止める

30. 日々の仕事を通じて、知識や技能、経験を積み重ねる
31. 能力の習得だけでなく自らの成長のために責任感を持ってキャリアを形成する

## E. 自分自身・周囲と調和し、好循環を生み出す

### e1：循環を促し自分自身を整える

32. 仕事と休暇を明確に区切り、どちらもバランスよく保つ
33. 常に、目標への達成度合いを結果とプロセスの両輪で評価しながら行動をきめる
34. 仕事内外のキャリアを調和させ、相乗効果による好循環を生み出す

### e2：会社や環境と調和する

35. 組織での立場を超えて、周囲に対し対等かつ積極的な働きかけをする
36. 価値観を起点に会社との適応度を高める
37. 個人、企業、社会の全てにとって良いキャリアの進化を目指す
38. 調和のとれた主体性を目指し、自律性や成長を支える外部環境を整える
39. 自分の状況に合わせて自分の役割を發揮し、柔軟に対応する



## プロジェクト概要

プロジェクト名：キャリアオーナーシップリビングラボ

主体組織：パーソルキャリア株式会社

パートナー組織：特定非営利活動法人ミラック

プロジェクト期間：2020年2月～現在（概念整理は2020年2月～4月）

## 主体組織概要

会社名：パーソルキャリア株式会社（代表取締役社長：峯尾 太郎）

本社：東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング27F

ミッション：人々に「はたらく」を自分のものにする力を

## パートナー組織概要

団体名：特定非営利活動法人ミラック（代表者：西村勇也）

本拠地：京都府京都市下京区朱雀正会町1-1

ミッション：既にある未来の可能性を実現する

## サイトURL（お問い合わせはこちらから）

<https://co-livinglab.persol-career.co.jp/>